

#### 4 聾学校

##### (1) 個別指導計画作成の手順

### 個別指導計画作成の手順

#### 1 プロフィールの作成（様式1）

プロフィールの作成は、担任が行う。

(1) これまでに収集した基礎資料を基に記入する。

(2) 不足の情報に関しては、保護者や専門機関等へ、アンケート調査や連絡帳、電話等で確認して記入する。

#### 2 長期個別目標の設定（様式2）

プロフィールを基に個人別指導目標を設定する。原案は、各担当者と連携を図りながら担任が設定する。

(1) 聴覚障害面（聴覚活用、言語形成、発音・発語）、教科学習面、生活・行動面の三領域について実態を踏まえながら、指導目標を設定する。

(2) 優先目標を設定する。

(3) 学年会、ブロック会、学部会等で報告し合って確認し、共通理解を図る。

(4) 目標設定の過程での保護者との連携、目標の共通理解、家庭で指導できることを確認する。

指導方針の決定手続きについては、各担当者と連携を図りながら担任が原案を作成し、学年会で検討しブロック会、学部会等必要なところで共通理解を図る。その際、次のことに留意する。

ア 教科・領域を越えて指導上基本的に踏まえること。

イ 個別指導、集団の中での指導等大枠としての方針を決定する。

ウ 保護者への説明と共通理解

指導・担当者の決定手続きについては、①学年会、ブロック会、学部会等で指導形態別の担当者を決定する。②授業担当者全員で協議・決定する。③保護者への説明と共通理解を図る。

#### 3 個別年間指導計画の作成手続き（様式3）

(1) 教科・領域援助者が、長期個別指導目標を基に年間指導計画を作成し担任に提出する。

(2) 担任は提出されたものをまとめて、個別年間指導計画（様式3）を作成する。

(3) 教科・領域の援助者で見直し、共通理解を図る。

#### 4 短期個別指導目標・計画・評価の作成・手続き（様式4）

各援助者が、年間指導目標を基に具体的に指導計画案を作成する。

(1) 指導計画を作成するに当たっては、単元、学期、月、週及び本時の指導案等が考えられる。

(2) 児童生徒の指導内容、方法、手立て及び変容などを記録として残すようにする。

(3) 各援助者が評価したものを担任が集約し、指導の成果を把握する。なお、評価をする際には次のことも留意する。

ア 短期目標、手立ての評価

イ 本人による自己評価や保護者による評価

ウ チェックリスト等による客観的評価

(2) 小学部3年の事例

プロフィール

(様式1)

		記入者 ○○ ○○	記入日 平成8年○月○○日										
氏名 ○○ ○○	部年 小学部3年○組	性別 男 生年月日 昭和62年○月○日生	保護者氏名 ○○ ○○										
現住所 〒○○○-○○ ○○区○○市○○	電話 ○○○-○○○○												
〒 電話													
障害名 聴覚障害(感音性難聴), 情緒障害(自閉的傾向)	身障手帳	第1種3級 ○○○○○号 交付 平成○・○・○											
診断名													
家族構成 父,母,兄,本児(小5),妹(3歳),祖父の6人家族													
生育歴 (疾患原因) • 胎生期:良好 • 乳児期・幼児期:良好 • 原因不明													
医療機関 • ○○大学医学部附属病院, ○○センター(財)(○○先生)													
入学前の教育歴 • ○○大学附属病院ホームトレーニング(平成元年3月~6月) • ○○大学教育相談(平成元年6月~平成2年10月) • 2歳4か月~3歳6か月(1年2か月間)保育園へ通園 • ○○学校早期教育(平成2年9月~平成3年3月) • 3歳の頃聴力検査,補聴器を装用 • ○○学校幼稚部(平成3年4月入学~平成6年3月卒業) • ○○学校小学部(平成6年4月入学)現在小学部3年生													
疾病及び健康面で配慮すべき事項 • 偏食が強いので歯の質が悪く,虫歯になりやすい。 • 欠席も少なく,健康である。													
標準検査の記録													
学年	検査年月日	検査の名称	結果	検査者	備考								
幼稚部	平成6・1・29	WPPSI知能検査	動作性IQ 45	○○	平成5年5月19日								
2年	平成7・11・9	S-M社会生活能力検査	SQ44, SA3-7	○○	項目:L;4-8.0;5-1,SD:2-2								
	• •												
聴力検査の記録													
学年	検査年月日	聴力損失(dB)											
		平均	左				右						
		左	右	250	500	1000	2000	4000	250	500	1000	2000	4000
2年	平成7・7・12	99	109		85	100	110			115	110	100	
	• •												
	• •												
補聴器													
購入年月日	メーカー	機種	製造番号										
平成○・7・12	リオン	両耳耳掛け補聴器	右:HB75AL0000 左:HB75AL0000										
•	•	•	•										
補聴器装用時の聞こえの評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>10M位離れたところからでも聞こえる。</li> <li>補聴器を外すことを嫌がり,電池が切れるとすぐに母親に言う。</li> </ul>												
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビー玉やおはじきに強い固執性があり,常に側溝や穴にいれたり,石で割ったりして遊ぶ。</li> <li>言語発達は,2語文を上手に使う。(ビー玉ちょうどいい。体育を終わります。)</li> <li>意にそぐわないと奇声を発したり,物を投げたり,頭を壁等にぶつけたり,教師の目を攻撃するような動作をする。</li> </ul>												
行動特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>禁止をされると「危ないからダメね。」と言って,止めることもあるが情緒が不安定になる。</li> <li>簡単な疑問詞等(なに,だれ)の質問には答えられず,オーム返しになることが多い。</li> <li>食生活に偏りが見られ,1つの物をたくさん食べたり,全く食べなくなったりと食べ方に波がある。皮や焦げたところを好む。</li> </ul>												
保護者の願い等	<ul style="list-style-type: none"> <li>就学時に幼稚部として養護学校入学を進めたが,母親が本校での教育を強く希望したので本校に入学する。</li> <li>3学年になる時に重複障害学級の入級を相談したところ母親が了解した。</li> <li>家庭でも熱心に文字の学習を指導している。その成果がうかがえ,簡単な文を読んだり書くようになってきた。自分から書くことは,ほとんど見られない。</li> </ul>												

(様式2)

## 平成8年度 長期個別指導目標

部・年	小学部 3年○組	氏名 ○○○○	作成者 ○○○○	記入日 平成8年○月○日
項目	場面		学 校	家 庭
			指 导 目 標 (指導の場)	目 標 等
聴覚障害面			<input type="radio"/> 换気器の点検・調整(養訓) <input type="radio"/> 発音発語能力を高める。(話合い活動) (サ行・マ行音) <input type="radio"/> 聴覚活用を高める。(学習全般) <input type="radio"/> コミュニケーション活動(養訓)	<input type="radio"/> 换気器理解と使用法と管理方法 <input type="radio"/> 医学的な処置や治療 <input type="radio"/> 聴覚活用
教科学習面			<input type="radio"/> 学習のパターン化を図り、朝の会や一定の学習中で、ひらがな文字や単文を読んだり書いたりすることができる。(国語) <input type="radio"/> 数の基礎的学习(算数) <input type="radio"/> 集団の学習に参加することができ、一定時間あいさつや先生の指示に従って簡単な動作ができる。(生活科、体育、音楽、図工)	<input type="radio"/> ひらがな文字を使って物の名前や単語を覚える。 <input type="radio"/> 絵日記をつける。
生活行動面			<input type="radio"/> 情緒面の安定を図りながら、先生の指示を受けて集団に参加できる。(全体集会、ゲーム集会、生活等) <input type="radio"/> 自律心をうえつける。(学習全般) <input type="radio"/> おはじきやビー玉に強い固執性があるので、それを仲立ちにして徐々に遊びの広がりを求めると共に、遊びを通してコミュニケーション能力の向上を図る。(養訓、国語、道徳、特活等) <input type="radio"/> ブランコやロールマットの運動を通して身体の緊張を取り去る。(養訓、特活) <input type="radio"/> 身辺自立をはかる。(大便、手洗い等)	<input type="radio"/> 日常生活面の自立を図る。(食事、更衣、片づけ等) <input type="radio"/> いろいろな遊びを経験させる。
その他			<input type="radio"/> 疲れいやなことがあったりすると、自傷行為がみられるので配慮する。(学習全般) <input type="radio"/> 好きな遊び(木登り、散歩)を十分にさせることで心の解放を図る。(体育)	<input type="radio"/> 水分補給や食事の確保。 <input type="radio"/> 祖母との散歩、ドライブ。

◎ 最優先目標

○ 優先目標

## (様式3)

## 平成8年度 個別年間指導計画

項目 学 期 月	1 学期						2 学期						3 学期					
	部・年	小学部	3年○組	氏名	○○	○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	
聴覚障害面	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	→	→	→	→	→	→
	・聴覚活用																	
	・発音発話																	
教科学習面	・補聴器の点検調整																	
	・朝の学習—歌・話し合い・日記																	
	・生活科—田植え—芋植え																	
生活行動面	・買物学習	山新	消防署	水戸駅	山新	水戸駅	日立公園	水戸駅	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	・校外学習																	
	・集団参加 (体育、音楽、図工)						プール学習	運動会	文化祭	駅伝	駅伝							
その他	・情緒の安定																	
	・身辺自立																	
	・生活のリズム化																	
遊び	・遊び																	
	・砂遊び																	
	・散歩																	
西武	・西武																	
	・リラクゼーション																	
	・スキシップ																	
トランポリン	トランポリン																	
	手遊び歌・マッサージ																	

(様式4)

## 平成8年度 短期個別指導目標・計画・評価

部・年	小学部 3年○組	氏名 ○○ ○○	作成者 ○○ ○○	作成日 8年○月○日
生活単元		短期指導計画	評価者 ○○ ○○	記入日 ○年○月○日
指導目標	<input type="radio"/> 学習のパターン化を図ると共に、一定時間学習に参加し、単語や單文を読んだり書いたりすることができる。(ノート学習) <input type="radio"/> 集団学習の場にいることができ、先生の指示に従って、一定時間友達と同じ学習に参加できる。(リレー、あいさつ、整列等)			
指導課題	<input type="radio"/> 学習の場の理解 <input type="radio"/> 学習の流れの理解 <input type="radio"/> 学習の始めと終わりの理解 <input type="radio"/> 情緒の安定			
指 導 記 錄				
指導期日	学習内容・方法・手だて		指 導 結 果・評 価	
9/3	<input type="radio"/> 夏休みの反省をしよう  宿題等を使って、学習の場と教室を理解させると共に、教師とのコミュニケーション関係をもう一度作る。  • 日記 • 宿題をもう一度 • 2学期の目標（がんばること）		• 久しぶりの学校でじっとしていることができず、ふらふら歩き回っている。 • 視線が合わず、質問に対して聞いているが答えようとする姿は見られず。 • 目標や頑張ることの意味が分からぬ。「約束」と言うと分かったようであるが、オーム返しである。学習のパターン化を図ることで学習をすることを理解させる。	
9/13	<input type="radio"/> 運動会に参加しよう  本人の参加できるところを明確にし、友だちを意識した行動をとらせる。一定時間学習に参加させる。  • 運動会の歌 • 昨年の写真を見て発表する • やりたい種目を発表する		• 身体を動かすリズム運動の歌は好むが、手足の動きがないのでもう一つ興味がないようである。キンシップの歌を好む。個別の配慮を徹底する。 • 昨年の写真を見せるが、何を聞かれているのか意味が分からず、オーム返しである。気分はうつろである。前のことと今のことが結びつくのは難しいようである。	
9/21	<input type="radio"/> 運動会当日  担任の支援すべて参加する。  • リレー • 借り物競走 • ダンス • 開閉会式 • 応援		• 母親が参加していたし、交流校の児童の参加があったので、いつもの体育館と違うので混乱していた。 • いつもの梯子遊びや物投げをしたくて、2階に上がるとしていた。パターンの行動。 • リレーは担任に促されて走れたが、誰に渡すのかという対人意識は希薄であった。	

## (3)中学部3年の事例

## プロフィール

(様式1)

記入者	○○ ○○	記入日	平成8年 ○月○日
氏名	○○ ○○	部・年・組	中学部3年○組
保護者氏名	○○ ○○	住所	茨城県○○郡○○町○○番地
障害名 診断名	聴覚障害(感音性難聴)		身障手帳 一種3級 交付 昭和○○○○
家族構成	父、母、兄、弟の5人家族		
生育歴 疾患原因	特に異常なし 原因不明		
医療機関	○○医大(昭和58年に脳波の検査を受けるが異常なし。)		
入学前の教育歴	昭和58年より本校早期教育を受ける。		
疾病及び健康面で配慮すべき事項	特になし		

## 標準検査の記録

学年	検査年月日	検査の名称	結果	検査者	備考
1年	平成6・6・4	中学校用新田中B式知能検査	I Q 5 8	○○ ○○	
3年	平成8・6・4	読書力診断テスト[B1型]	R A 8年10月 R Q 6 2	○○ ○○	
3年	平成8・6・10	絵画語い発達検査	V A 6歳10月	○○ ○○	問題提示には指文字を併用した。
3年	平成8・9・19	W I S C - R 知能検査	V I Q 5 3 P I Q 7 9	○○ ○○	問題提示には指文字を併用した。

## 聴力検査の記録

学年	検査年月日	聴力損失(dB)											
		平均		左						右			
		左	右	250	500	1000	2000	4000	250	500	1000	2000	4000
2年	平成7・9・17	9 2	9 4	80	80	95	95	105	85	90	95	95	105
3年	平成8・6・21	8 9	1 0 2	75	80	90	95	105	95	105	100	100	110
	・・・												

## 補聴器

購入年月日	メーカー	機種	製造番号
平成6・4・20	o t i c o n	E 3 9 P L	1 1 4 5 • • •
・・・			

補聴器装用時の聞こえの評価	補聴器を積極的に装用しており、聴覚をよく活用している。日常生活においては、聴覚口話法でほぼコミュニケーションが成立する。聴覚を頼りにしているので、同口形のことばなどを間違えて覚えているものも多い。発音も比較的明瞭である。家族となら電話でのやりとりもできる。
学習状況	• 基本的な言語力の不足や遅れから、教科学習全般において遅れがみられる。国語、数学では、小学4年の教科書を使用しているが、内容を理解させるには非常に時間がかかり、また、個別的な援助を必要としている。学習態度はとても真面目である。
行動特性	• 明るく活発で、友達思いのやさしい性格なので、友達から大変好かれている。日常生活において、幼い頃から母親が家事を手伝わせていて、調理や清掃などはきちんとできる。
保護者の願い等	• 学校高等部進学希望している。将来は、本人が希望している組立作業をするような企業に就職できることを願っている。

## 平成 8 年度 長期個別指導目標

中学部 3 年○組	氏名	○○ ○○	作成者	○○ ○○	作成日	平成 8 年○月○日
項目 場面	学 校			家 庭		
	指 導 目 標, (指導の場)			目 標 等		
聴覚障害面	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 3 ~ 4 語程度の文や、身近な事柄の文章の聴取理解、表現ができる。 (養護・訓練、国語)</li> <li>○ 自分の聴覚障害に関する正しい認識を持ち、障害を受容し、克服していくことができる。 (養護・訓練、理科)</li> <li>・ 傾聴態度、意思を伝えようとする意欲、聞き取れないときの対処法等、コミュニケーションの基本的な態度や技能を身につける。 (学校生活全般)</li> <li>・ 補聴器の役割や管理の仕方を正しく理解し、自己管理ができる。(養護・訓練)</li> <li>・ 声の大きさ、速さ、口形に気をつけて、わかりやすく話すことができる。(学校生活全般)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 説明書等を読んで、物を作ったり料理をしたりすることを通して、文章を正しく読み取る力を身につける。</li> <li>・ 母親の助言を受け、補聴器の自己管理ができる。</li> </ul>		
教科学習面	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 語句、語法や構成等を踏まえ、表現されている内容を正しく読み取ることができる。(国語)</li> <li>○ 課題解決のプロセスを知り、自分の力で課題を解決する態度や能力を身につける。 (国語、数学)</li> <li>・ 実験や実習の中での話し合い活動や書く活動を通して、自分の意見や感想等を相手に伝わるように表現することができる。(教科学習全般)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 与えられた課題に進んで取り組み、家庭学習を習慣化することができる。</li> </ul>		
生活行動面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会生活に必要な一般常識や公衆道徳を理解する。 (養護・訓練、学級活動)</li> <li>・ 体験学習を通して、色々な職業の種類を知り仕事や勤労の尊さを知る。 (養護・訓練、特別活動)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家事の手伝いをとおして家庭生活や食物に関する基礎的な知識や技術を身につける。</li> </ul>		
その 他						

◎ 最優先目標

○ 優先目標

## 平成8年度 個別年間指導計画

項目	学年	1学年			2学年			3学年			作成者 ○○○○○	作成日 平成8年○月○日	
		中学部	3年○組	氏名	○○○○○	8月	9月	10月	11月	12月	1月		
聴覚障害面	4月	・補聴器の役割と管理の仕方(養護・訓練)	・新聞作り	・新規作り 話し合い、取材、インタビュー、ワープロによる記事作り	・オージオと病気(養護・訓練)方(養護・訓練)	・聴覚障害と病気(養護・訓練)方(養護・訓練)	・オージオとグラムの見聞こう(養護・訓練)	・様々な障害(養護・訓練)・卒業文集作りー進学した先輩の話を聞こう(養護・訓練)	・耳のつくり(理科)	・耳のつくり(理科)	・耳のつくり(理科)	・耳のつくり(理科)	・耳のつくり(理科)
教科学習面	5月	・初歩的な教材を用いての読み取り(国語)	・話し合い活動	・話し合い活動	・日記(国語)	・日記(国語)	・日記(国語)	・四コマ漫画などを用いてのお話作り(国語)	・読み取り(国語)	・読み取り(国語)	・読み取り(国語)	・読み取り(国語)	・読み取り(国語)
生活行動面	6月	・宿泊学習、バレー大会	・職場体験	・職場体験	・公共施設の使い方	・公共施設の使い方	・ファックレスの使い方	・病院へ行く時(養護・訓練)	・敬語	・敬語	・敬語	・敬語	・敬語
その他	7月												

## 平成8年度 短期個別指導目標・計画・評価

国語科 短期指導計画		中学部3年〇組	氏名	〇〇 〇〇	指導者	〇〇 〇〇
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読む時、具体的にどのようにすれば良いのかその方法を知り、自分の力で読む態度や能力を身につける。</li> <li>文中の主語と述語の関係を明確につかむことができる。</li> </ul>					
指導課題	初步的な教材文（小学1～3年程度の物語文の一部）を読んで、絵を描きそれを基にして「〇〇が□□した。」「〇〇が△△を□□した。」という短い文にまとめる。					
指導記録						
指導期日	学習内容・方法・手立て			指導結果・評価		
10/2	<p>教材文は、一つ一つの語句を意識できるように、分ち書きにする。また、徐々に難易度を上げていくようになる。</p> <p><b>文章の取り組みの方法を知る。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>教材文を読む。 (小一下、「はないっぽいになあれ」の冒頭部分)</li> <li>一読後どんな話かを発表する。</li> <li>指導者が読んで、絵を描いていくのを見る。</li> <li>もう一度教材文を読む。</li> <li>指導者が描いた絵を基に「〇〇が□□した。」という形の文にまとめるのを見る。</li> <li>別の教材文で、自分でやってみる。</li> </ol>			<ul style="list-style-type: none"> <li>一読後は「風船の花」「花の種」などというように、直観的に思いついた言葉を発表した。音読の状況を見ると、表記されている文字をただ読んでいるという印象を受けた。</li> <li>絵を描いて、読み取る方法をすぐに理解した。</li> <li>一読後に発表した内容と、絵を描いてからまとめた文を比較させると、「絵を描くとよくわかるね」と言った。</li> <li>自分でやってみると一読では主語は探し出せなかったが、絵を描いた後で、主語がなんであるかがわかった。</li> <li>読んで絵を描くという活動を取り入れたことで、一つ一つの語句や語句と語句の関係に意識が向いてきた。また「絵を描く」ことが幼稚な印象を与え拒否するのではないかと心配したが、特にそのようなことはなく、すんなり受け入れられた。</li> </ul>		
10/3	<p><b>絵を描いて自分の力で読み取る。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>教材文を読む。</li> <li>一読後どんな話かを発表する。</li> <li>絵を描く。</li> <li>もう一度教材文を読む。</li> <li>指導者が描いた絵を基に、「〇〇が□□した。」「〇〇が△△を□□した。」という形の文にまとめる。</li> <li>文章と絵の内容があつてない場合や正しく一文にまとめられない場合は、描いた絵について説明させる。そして、もう一度文章を読ませ、文章と絵の矛盾点に気付かせるようにする。</li> </ol>			<ul style="list-style-type: none"> <li>一読後どんな話であったか、文形式で発表しようとするようになってきた。正確に文でまとめるすることはできないが、絵を描いた後は正しい内容の文にまとめることができるようになってきた。</li> <li>わからない語句は絵に描けないため、自分がわかる語句とわからない語句とが明確になってきた。わからない語句は自分から尋ねるようになった。</li> <li>絵の説明をさせた後、文章を読ませたら、矛盾点に気付き、自分から絵を訂正した。その後正しい内容の文にまとめることができた。</li> <li>絵を描くことは、語句の意味や語句と語句の関係を視覚的に表すことであり、それは本生が初步的な文章を読み取る補助手段として、大変有効である。今後も教科書の学習と併行して初步的な文章の読解指導を継続し、「自分で読んでわかる」経験を積ませたいと考える。しかし、本生の興味関心や精神面の発達を十分考慮した上で、教材や方法を工夫していかなければならないと思う。</li> </ul>		